

令和4年度 学校経営方針

大和市立下福田小学校

校長 江守 哲也

学校教育目標

◇ よく考える子（知）

学習や生活環境などに関心を持ち、身近な疑問や課題を解決するためにはどうしたらよいかを考え、いろいろなつながりを大切にしながら、対話を通して自分の考えを深めていく児童を育成します。

◇ 思いやりのある子（徳）

相手の気持ちを考え、互いに気持ちよく過ごせるように行動できる児童を育成します。

◇ 健康で明るい子（体）

心地よい汗を流し、素直な心で努力する児童を育成します。

◇ がんばる子（意）

目標を持って、創意工夫をしながら意欲関心を維持できる児童を育成します。

<重点目標>

課題解決力・自治力を発揮できる子

『考えを深め いきいきと表現できる児童の育成』

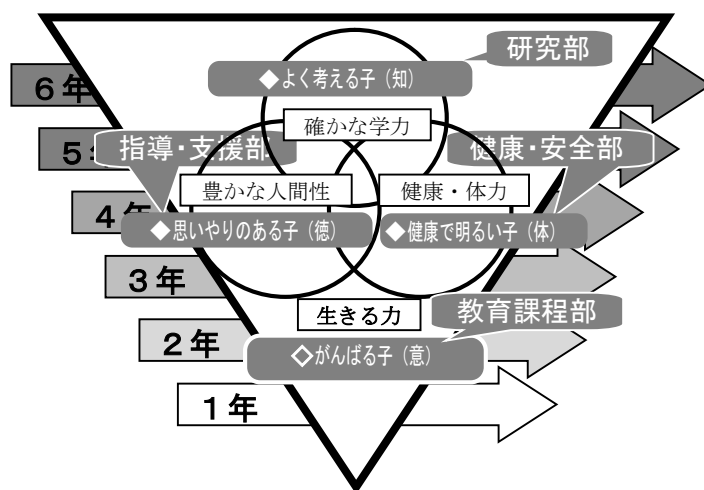
① 組織力ある学校を継続します

『教職員の協働により、保護者・地域から信頼される学校』づくり

○ 運営組織が連動し、6年間の学びを培う学校

学校は、6つの学年(特別支援級を含む)組織と、4つの部によって運営されています。学校の教育活動は、これらの運営組織の計画のもと、実施されており、子供たちはその中で、6年間、学びを積み上げていきます。つまり、6年生の姿が、重点目標で掲げた姿に迫ることが求められます。

そのために、運営組織の取組みが教職員によって共有化され、それぞれの取組みが連動し、機能する学校を目指しましょう。



○認め合い、学び合いが保障される学校

学校は、子供たちが生活や学習を築いていく場です。子供たち一人一人が自分の考えをもつ活動と、全体で意見交換するなど発信の繰り返しによって、生活や学習を練り上げていくことが重要です。そのためには、教師が確かな授業力や、学年・学級経営力を持つことが求められます。教職員の協働によって、指導力の向上を図り、学校力を向上させましょう。

○安心・安全が確保され、学校、家庭、地域の教育力が結集する学校

学校は、子供たちが仲間と共に学び、育つ場です。そのためには、第一に子供たちが安心して生活でき、安全が確保される学校であることが求められます。

教職員は連携して子供たち一人一人の状況把握に努めると共に、子供や保護者の想いや願いを受け止めながら指導にあたり、子供たちや保護者が「学校に行きたい」「学校に通わせたい」と思える学校を創っていきましょう。…『通わせがい』のある学校

また、保護者や地域との連携が不可欠です。学校の教育活動を積極的に発信すると共に、保護者や地域の教育力を結集し、支援や協働のもと、子供たちの学びの場を創造していきましょう。

② 授業力、学年・学級経営力に満ちた教師をめざします

○同僚と共に学び続ける教師

職員相互のコミュニケーションを大切にし、共に学ぶ姿勢で教育を考え、今日的課題を理解し、確かな指導力・実践力の高まりを実感できる教師を目指しましょう。…『働きがい』のある学校

○子供への愛情と教育への情熱をもつ教師

子供の成長を願い、常に子供を受け止める姿勢を持ち、指導にあたります。また、自らの研修・研究・実践の積み重ねに裏付けされた自信をもとに、専門職としての自覚を持って児童や保護者と信頼関係を築いていく教師を目指しましょう。…『働きがい』のある学校

○創造性豊かに指導する教師

子供の実態と、教師の願いの接点で授業や学年・学級経営を構想し、創造性豊かに指導にあたる教師をめざしましょう。…『学びがい』のある学校

③ 保護者・地域との信頼関係をさらに深めます

保護者と積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係をさらに深めていく中で、学校の教育活動の理解、協力を求めています。また、子供たちの育ちについて、共に考え、指導する姿勢を大切にしていきたいと思えます。さらに地域の教育力を活用し、子供たちを取り巻く環境の変化に合わせた教育活動への理解、支援を求めています。